

施工に際しては、必ずこの施工説明書に従い正しく施工してください。
この施工説明書はお客様に保管頂くよう依頼してください。

安全のために必ずお守りください

ここでは施工に際して守って頂かないと人身事故や家財の損害に結び付く注意事項を挙げています。
施工前にこの項目をよくお読みいただき、正しく施工してください。

⚠ 警告

⊘	修理技術者以外の方は、絶対に修理、改造は行なわないでください (思わぬケガをすることがあります)
⊘	ストーブやヒーターなど熱を発生するものの近くに設置しないでください (変色や変形、火災をおこすおそれがあります)

⚠ 注意

❗	化粧鏡の固定位置には、壁裏の補強をしてください (化粧鏡の取付強度が保てず、落下によりけがをすることがあります)
❗	施工完了後に化粧鏡の固定にガタツキがないか確認してください (使用中に落下してけがをすることがあります)
⊘	浴室など高温多湿な場所や、水に浸る可能性がある場所には設置しないでください
⊘	製品に強い力や衝撃を与えないでください (破損の原因になります)
⊘	直射日光が当たる場合は必ずカーテンなどでさえぎってください。またスポット照明や殺菌灯を直接当てないでください(変色や変形の原因になります)
⊘	不陸が5mm/2mを越える場所には施工しないでください (鏡がひずんだり割れたりする恐れがあります)
⊘	酸性、アルカリ性および塩素系の洗剤類、ベンジン、シンナー、ラッカー、アルコール等の溶剤や油類を使用して、化粧鏡を拭かないでください (変色や変形の恐れがあります。溶剤がつかますと跡が残ることがあります)

取付前の確認

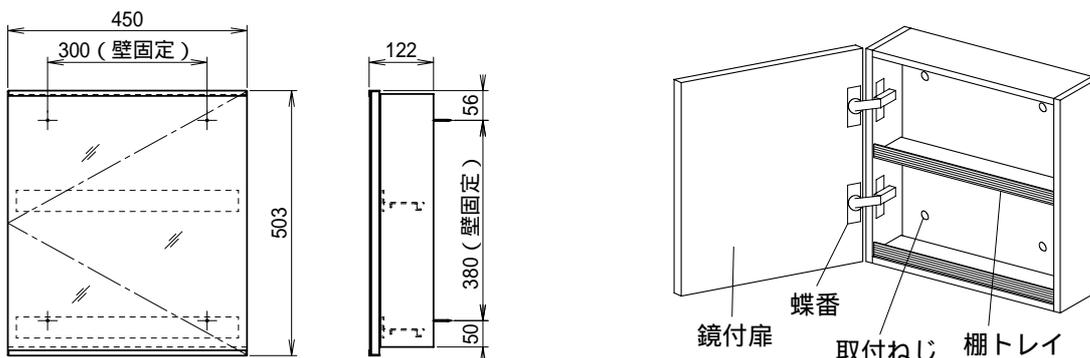
〔補強木、仕上げ材の厚みの確認〕

器具の取り付けには、壁面に補強木(幅90mm×厚み30mm以上)が指定の位置(壁固定位置)に必要です。
あらかじめ建築施工の際に補強木を設けてください。直接、壁の仕上材に器具の取り付けはしないでください。
補強木手前の仕上材は取付ねじを補強木に届かせるため必ずトータルの厚みで12.5mm以下のものを用いてください。
湿式壁の場合は、市販のボードアンカー等を使用し施工してください。

〔壁の不陸について〕

器具の取付壁面の不陸は5mm/2m以下であることを確認してください。
不陸があるまま施工すると鏡がひずんだり、扉の開閉に支障がでる場合があります。

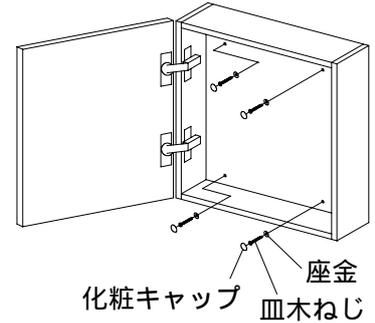
寸法図・製品名称



取付方法

化粧鏡を所定の位置に、皿木ねじ（座金を通す）で壁に固定します。
固定した後、座金に化粧キャップを取り付けます。

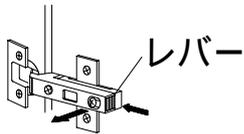
化粧鏡を壁に固定する時は、鏡付扉と棚トレイをはずしてください。
鏡付扉にずれが生じた場合は、蝶番の調整を行ってください。



鏡付扉・棚トレイの着脱方法

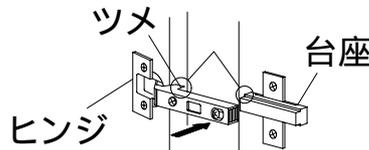
鏡付扉のはずし方

蝶番の後のレバーを押さえながら、台座からはずしてください。

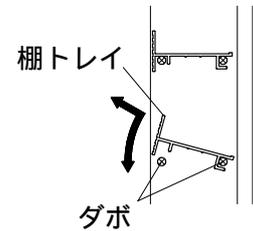


鏡付扉の取り付け方

ヒンジ側のツメを台座の手前側に引掛けた後、カチッと音がするまで押し込みます。



棚トレイの前を少し持ち上げ、手前に引き出します。
取り付け方は、逆の手順でおこなってください。



鏡付扉（蝶番）の調整方法

扉の前後調整

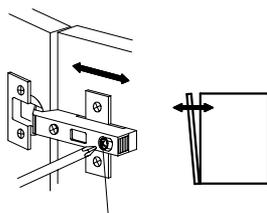
前後調整ねじをゆるめて蝶番を前後に動かし調整した後、前後調整ねじを締め直します。

扉の左右調整

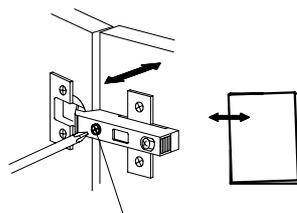
左右調整ねじを回して調整します。

扉の上下調整

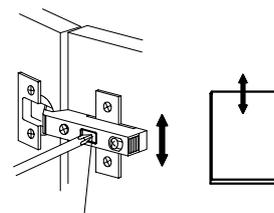
上下の蝶番の上下調整ねじ（四角の穴の奥）をゆるめ、扉を上下させ調整した後、上下調整ねじを締め直します。



前後調整ねじ
前後調整



左右調整ねじ
左右調整



上下調整ねじ
上下調整

施工後の確認

固定の確認

- (1) 取付ねじが十分に締まっているか、ゆるみがないことを確認します。
- (2) 化粧鏡自体にガタツキがないことを確認します。
- (3) 蝶番のはずれ、ガタツキがないことを確認します。
- (4) ねじのゆるみ、ガタツキがある場合は必ずねじ位置を変えて取り付け直します。

ジャニス工業株式会社